

TSI、スクラップ&ビルド総仕上げ

TSIホールディングスの今期のスクラップ&ビルド

東京スタイル	廃止	上期で「レポルテ」「アヴィエンヌ」「デリススポーツ」「スタイル」「パートネール」の5ブランドを廃止。これを含めて百貨店中心に約200店を閉鎖
		下期で1ブランド廃止
	新設	下期からSCに向けた新ブランド「アリスミュー」の出店開始
		下期からEC及び直営店で展開する新ブランド「ウィ、アヤノ リュバン」を販売
来期から百貨店で「ブラン ルビエ」の販売開始		
サンエー・インターナショナル	廃止	下期で6ブランドを廃止。これを含めて約70店閉鎖
	新設	上期から「ブラネット ブルー ワールド」の出店開始
		上期から「aptn.945 TOKYO」の販売開始



今秋デビューの「ウィ、アヤノ リュバン」はeコマースを先行開始している(左)。先月の東京ランウェイでは神田沙也加がモデルとして同ブランドを着用した



TSIホールディングスは、引き続きブランドや店舗のスクラップ&ビルドを進める。これまでは傘下の東京スタイルの不採算・低収益事業のスクラップが主だったが、今下期(2013年9月~14年2月)はサンエー・インターナショナルで6ブランドを廃止し、これを含めて約70店を閉鎖することを決定した。東京スタイルも上期(13年2~8月)に5ブランドを廃止し、170店を閉めたのに続き、下期も1ブランドを廃止する。一方で新規流通や新規顧客を取り込むためのブランド導入も積極化する。「コスト構造改革の総仕上げの局面に突入した」(三宅孝彦・取締役経営企画本部長)とし、ブランド資産の入れ替えを加速する。

サンエーが廃止する6ブランドについては「現段階では発表を控える」(三宅取締役)としている。百貨店を主販路にする東京スタイルは、前期(13年2月期)に不採算・低収益店舗を約400

店閉店するなどのリストラを断行。結果、今上期の東京スタイル単体業績は、売上高が対前期比75.2%の大幅減収になったものの、粗利益率が向上したことで赤字幅は改善した。生産・供給体制も変える。商品の約8割を商戦の半年前の展示会に基づいて生産する体制を改め、商戦が始まってからの追加商品の割合を増やす。自社工場比率も下げる。布帛に関しては約7割を自社工場で作っていたが、OEM(相手先ブランドの生産)やODM(相手先ブランドの企画・生産)を活用してコスト削減につなげる。新ブランドとしては11月1日に原宿店を開く「ウィ、アヤノ リュバン」、9月にイオンモール盛岡に1号店をオープンした「アリスミュー」など、百貨店以外の販路を開拓する。百貨店向けでも同社の主力であるミッシー・ミセスとは異なるテイストで、コンテンポラリーブランドとして訴求する「ブランルビエ」を来春から導入する。